



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

国語の学習

小学校

六年生

四月 第③週

〈カレライス〉





みなさんにお知らせ

1. 質問があったら、メールをください。すぐお返事します。
 2. 自分が書いた文章を見てもらいたいときはメールで送って
くれば、直して送り返します。
- ❖ メールアドレスは、 Akiko@JPNCClass.com です。
 - ❖ 授業で使ったスライドはWebページ <http://JPNCClass.com> から
印刷やダウンロードができます。



お家の方へ

1. 授業で使う文章を印刷する際、お子さんのお手伝いをお願いします。
 2. ノートは特に規定はありませんが、漢字学習用と国語のノートの2冊を用意してあげてください。
 3. 質問や作文などの添削はメールで随時受け付けています。積極的に送るように、声掛けをお願いします。
- ❖ メールアドレスは、 Akiko@JPNCClass.com です。
 - ❖ 授業で使ったスライドはWebページ <http://JPNCClass.com> から印刷やダウンロードができます。

① 授業で使う文章を印刷してください。



印刷の仕方

1. Webページ <http://JPNCClass.com> へ行きましょう。
2. YouTube授業をクリックしましょう。



The screenshot shows the JPNC Class website homepage. At the top left is the logo for JPNC Class, an online school for learning Japanese. Navigation links include 'お知らせ' (Notice), 'YouTube 授業' (YouTube Lessons), 'オンライン授業' (Online Lessons), '講演会・セミナー' (Lectures/Seminars), '講師プロフィール' (Teacher Profiles), and 'ご意見・連絡先' (Opinions/Contact). The main heading reads 'ようこそ JPN Class へ' (Welcome to JPN Class). Below this, there is a paragraph explaining the school's purpose: to support children and their families living overseas by providing Japanese language lessons online. It also mentions that the school organizes lectures and seminars for parents to discuss Japanese education and child-rearing. A second paragraph states that lessons are provided via Zoom and YouTube, suitable for children who cannot attend physical Japanese supplementary schools or who want to learn at their own pace. A final paragraph invites users to view more details about online lessons, YouTube lessons, and seminars. On the right side of the screenshot, there is an illustration of a person sitting at a desk with a computer monitor displaying the website and an open book.

JPNCClassは、海外に暮らす子どもたちとご家族をサポートする目的で開設されました。子どもたちにオンラインでの国語などの授業を提供します。また、ご家族と海外での日本語教育や子育てについて共に考える講演会やセミナーを開催します。

授業は、オンライン授業 (Zoom)、ビデオ (Youtube)を通して提供します。現在お住まいの地域に日本語補習校など日本語を学ぶ学校がない、行く時間がない、あるいは自分のペースで日本語の勉強を進めたいといった子どもたちに最適です。

詳しくは、オンライン授業、YouTube授業、講演会・セミナーのページをご覧ください。

②必ず用意してください

- ・国語のノートと漢字ノート
- ・筆記用具（赤ペン、赤えんぴつも必要）

③気をつけること

- ・大事だと思うところはノートに書いてください。
- ・「ビデオを止めてください。」と言われたら、ビデオを止めて、先生の指示にしたがってください。



- ・必要があるときは、ビデオを止めた
り、もう一度ビデオを見たりしてく
ださい。

- ・授業で使っているスライドを、印刷した
い人は、①と同じように **Webページ**

<http://JPNClass.com> からできます。

先週の宿題

1. 漢字

漢字テストの復習をしましょう。

*間違えた漢字、できなかつた漢字を主に練習しましょう。

2. 音読

「カレーライス」を読みましょう。

3. 場面ごとに区切って、くわしく読み取ろう。

*ノートをみたり、授業で使ったPDFをみて、復習しましょう。[Webページ <http://JPNC1ass.com>](http://JPNC1ass.com)
にいれば、簡単に見ることができます。

○「お父さんウィーク」前日

- ・ぼくは、お母さんから、ゲームの時間を守らなかったことをお父さんに（あやまる）ように言われた。

○「お父さんウィーク」初日

- ・（お父さんが作ったカレー）を二人で食べたが、ぼくは、おとうさんとしやべらなかつた。

○「お父さんウィーク」二日目

- ・この日も、ぼくは、お父さんと（しやべらなかつた）。

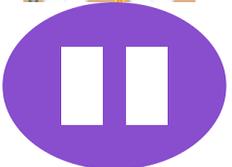
○「お父さんウィーク」三日目の朝と昼

- ・お父さんは、（目玉焼きと野菜いため）をぼくに作っておいて、会社に出かけた。

- ・学校にいる間、ぼくは心の中で（お父さんにあやまる）練習をした。

○「お父さんウィーク」三日目の夕方

- ・かぜをひいたお父さんに、ぼくは（カレーを作る）と言った。
- ・ぼくは「（ごめんなさい）」が言えなかつたけど、お父さんと二人で（料理を作り）、楽しく食べた。





しげまつ きよし
重松 清 作
とうじんばら のりひさ
唐人原 教久 絵

ぼくは悪くない。
だから、絶対に「ごめんなさい。」は言わない。言うもんか、お父さんなんかに。

「いいかげんに意地を張るのはやめなさいよ。」

お母さんはあきれ顔で言うけど、あやまる気はない。先にあやまるのはお父さんのほうだ。

確かに、一日三十分の約束を破って、夕食が終わった後もゲームをしていたのは、よくなかった。だけど、セーブもさせないで、いきなりゲーム機のコードをぬいて電源を切っちゃうのは、いくらなんでもひどいじゃないか。

「何度言っても聞かなかったんだから、しようがないでしょ。今夜お父さんが帰ってきたら、ちゃんとあやまりなさいよ。いいわね。」

お母さんはいつもお父さんのみかたにつく。

やあだよ、と言いつ返す代わりに、ぼくはそっぽを向いた。お父さんにしかられたのは、ゆうべ。丸一日たっても「ごめんなさい。」を言わなかったのは新記録だった。

「いい。今夜のうちにあやまって、仲直りしときなさいよ。あしたから、『お父さんウィーク』なんだから、けんかしたままだどつまらないでしょ。ひろしだって。」

毎月半ばの一週間ほど、お母さんは仕事がいそがしくて、帰りがうんとおそくなる。その代わり、お父さんが夕食に合わせて早めに帰ってくる。それが「お父さんウィーク」だ。

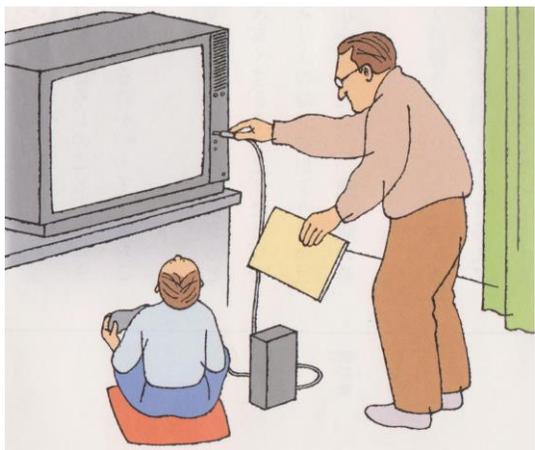
「お父さん、ひろしがよくないことをしたらしかるけど、ひろしのことが大好きなのよ。分かるでしょ。今朝も『ひろしは、まだすねてるのか。』って、落ちこんでたのよ。」

《新しい漢字》

電源 ゲン

《新しい読み方の漢字》

半ば なか





ほら、そういうところがいやなんだ。ぼくはすねてるんじゃない。お父さんと口をききたくないのは、そんな子どもっぽいことじゃなくて、もつと、こう、なんていうか、もつとー。」

「『特製カレーをたべれば、きげんも直るさ。』って張り切ってたから、晩ご飯の前におかし食べたりしないですよ。」

「またカレーなの。」

「文句言わないの。だったら自分で作ってみれば。学校で家庭科もやってるんですよ。六年生になったのに、遊んでばかりで家のことちっともしないんだから、全く、もうー。」

お母さんはいつだって、お父さんのみかただ。

それがくやしかったから、何があっても絶対にあやまるもんか、と心に決めた。

「お父さんウィーク」の初日、お父さんは、さつそく特製カレーライスを作った。

「ほら食べる、お代わりたくさんあるぞ。」

と、ごきげんな顔で大盛りのカレーをぱくつく。

でも、お父さんは料理が下手だ。じゃがいもやにんじんの切り方はでたらめだし、しんが残っているし、何よりカレーのルウが、あまったるくてしかたない。

カレー皿に顔をつっこむようにしてスプーンを動かしていたら、お父さんが、

「まだおこってるのか。」

と、笑いながら言った。

「ひろしもけっこう根気があるなあ。」

根気とは、ちよつとちがうと思う。どっちにしても、返事なんか、しないけど。

「この前は、いきなりコードぬいちゃって、悪かったなあ。」
あつさりあやまられた。最初の予定では、これでぼくもあやまれば仲直り完了。ーのはずだったけど、ぼくはだまっただままだった。

「でもな、一日三十分の約束を守らなかったのは、もっと悪いよな。」

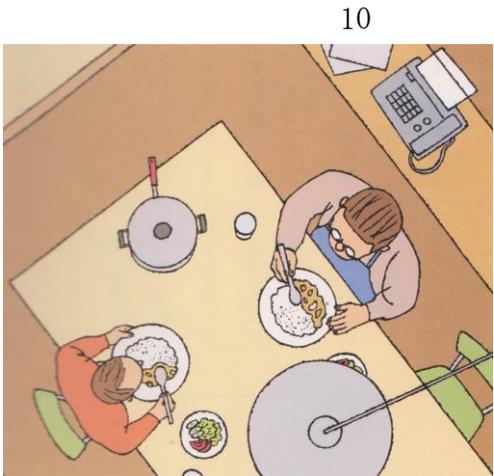
分かってる、それくらい。でも、分かってることを言われるのがいちばんいやなんだってことを、お父さんは分かってない。

「で、どうだ。学校、最近おもしろいか。」

ああ、もう、そんなのどうだっていいじゃん。言葉がもやもやとしたけむりみたいになって、むねの中にとまる。

知らん顔をしてカレーを食べ続けたら、お父さんもさすがにあきらめたみたいで、そこからもう話かけてこなかった。

「お父さんウィーク」の初日は、そんなふうに、おしゃべりすることなく終わった。



次の日の夕食も、カレー。 ゆうべの残りを温め直して食べた。ふうのカレーだと、一晩おくとこくが出ておいしくなるけど、特製カレーのあまったるさは変わらない。

「なあ、ひろし、いいかげんにきげん直せよ。しつこすぎないか。」

おとうさんは、夕食のとちゅう、ちよつとこわい顔になって言った。ぼくも本当は、もう仲直りしちゃおうかな、と思っていたところだった。でも、先手を打たれたせいで、今さらあやまれなくなった。ここであやまると、いかにもお父さんにまたしかられそうになったから—みたいで、そんなのいやだ。

「もしもうし、ひろしくうん、聞こえていえますかあ。」

お父さんはてのひらをメガホンの形にして言ったけど、ぼくがだまったままなので、今度はまたおつかない顔にもどって、

「いいかげんにしろ。」

とにらんできた。





ぼくはかたをすぼめて、カレーを食べる。おいしくないのに、ぱくぱく、ぱくぱく、休まずに食べ続ける。

自分でも困ってる。なんでだろう、と思ってる。今までなら、あっさり「ごめんなさい。」が言えたのに。もつとすなおに話せたのに。特製カレーだって、三年生のころまでは、すごくおいしかったのに。

二人でだまってお皿を片付けているとき、お父さんは、「頭が痛いなあ。」

とつぶやいて、大きなくしゃみをした。

かぜ、ひいたんじゃないのー。

薬を飲んで、早くねたほうがいいんじゃないー。

言いたかったけど、言えなかった。

翌朝、自分の部屋から起き出したぼくと入れかわるように、お父さんは、

「悪いけど、先行くからな。」

と、朝食も食べずに家を出ていった。「お父さんウィーク」では、よくあることだ。会社から早く帰ってくる分、朝は一番乗りして、ゆうべでできなかった仕事を片付けるのだ。

お母さんはまだねている。これも、「お父さんウィーク」のいつものパターン。仕事がいそがしい一週間のうち、特に忙しい何日かは、家に帰るのが真夜中の二時や三時になる、その代わり、次の日はふだんより少しだけゆっくり出勤すればいいのだという。

食卓には、目玉焼きと野菜いためのお皿が出ていた。黄身がくずれているから、お父さんが作ってくれたのだろう。朝は時間がないんだから、おかずなんか作らなくてもいいのに。目玉焼きぐらい、ぼくはもう作れるのに。

《新しい漢字》

困るこま

片付けるかた

痛いいた

翌朝ヨク

出勤キン

でも、お父さんは、

「火を使うのは危ないから。」

と、オーブントースターと電子レンジしか使わせてくれない。それがいつもくやくしくて、でも、お父さんがねむい目をこすりながら、ぼくのために目玉焼きを作ってくれたんだと思うとうれしくて、でもやっぱりくやくしくて、そうはいつでもうれしくて―。「行ってらっしゃい。」を言わなかったから、急に悲しくなってきた。

朝食を終えて自分の部屋にもどったら、ランドセルの下に手紙が置いてあった。

「お父さんとまだ口きいてないの。お父さん、さびしがってましたよ。」

絵の得意なお母さんは、しょんぼりするお父さんの似顔絵を手紙にそえていた。

学校にいたる間、何度も心の中で練習した。

お父さん、この前はごめんなさい―。

言える言える、だいじょうぶだいじょうぶ、と自分を元気づけた。「うげえっ、そんなの言うのってかつこ悪いよ。」と自分を冷やかす自分も、むねのおくのとどこかにいるんだけど。

夕方、家に帰ると、お父さんがいた。

「かぜ、ひいちやったよ。熱があるから会社を早退して、さつき帰ってきたんだ。」

パジャマすがたで居間に出てきたお父さんは、本当に具合が悪そうだった。声はしわがれて、せきも出ている。

「晩ご飯、今夜は弁当だな。」

お父さんがそう言ったとき、思わず、ぼくは答えていた。

「何か作るよ。ぼく、作れるから。」

「えっ。」

「大丈夫、作れるもん。」





お父さんは、きよとんとしていた。でも、いちばんおどろいているのは、ぼく自身だ。

「家で作ったご飯のほうが栄養あるから、かぜも治るから。」
なんて、全然言うつもりじゃなかったのに。

「いや。でもー。」と言いかけたお父さんは、少し考えてから、まあいいか、と笑った。

「お父さんも手伝うから。で、何を作るんだ。」
答えは、今度も、考えるより先に出た。

「カレー。」

「だって、おまえ、カレーって、ゆうべもおとといもー。」

「でも、カレーなの。いいからカレーなの。絶対にカレーなの。」
子どもみたいに大きな声で言い張った。

ほっぺたが急に熱くなった。

「じゃあ、カレーでいいか。」

お父さんは笑って、台所の戸だなを開けた。

「おととい買ってきたルウがのこってるから、それを使えよ。」

戸だなから取り出したのはー甘口。お子さま向けの、うんとあまいやつ。お母さんが、

「ひろしはこっちな。」

と、ぼくの方だけべつのなべでカレーを作っていた低学年のころは、ルウはいつもこれだった。

「だめだよ。こんなじゃ。」

ぼくは戸だなの別の場所から、お母さんが買い置きしているルウを出した。

「だって、ひろし、それ『中辛』だぞ。からいんだぞ、口の中ひいひいしちゃうぞ。」

「何言ってるの、お母さんと二人のときは、いつもこれだよ。」
お父さんは、またきよとんとした顔になった。

「お前、もう『中辛』なのか。」

意外そうに、半信半疑で聞いてくる。



ああ、もう、これだよ、お父さんってなあんにも分かってないんだから。

あきれた。うんざりした。
でも、

「そうかあ、ひろしも『中辛』なのかあ。そうかそうか。」
と、嬉しそうに何度もうなずくお父さんを見てみると、なんだかこっちまでうれしくなってきた。

二人で作ったカレーライスができあがった。野菜担当のお父さんが切ったじゃがいもやにんじんは、やっぱり不格好だったけど、しんが残らないようにしつかりにこんだ。台所にカレーのかおりがふうんとただよう。カレーはこうでなくっちゃ。

お父さんは、ずっとごきげんだった。

「いやあ、まいったなあ。ひろしももう『中辛』だったんだなあ。そうだよなあ、来年から中学生なんだもんなあ。」
と、独りでしゃべって、

「かぜも治っちゃったよ。」

と笑って、思いつきり大盛にご飯をよそった。

食卓に向き合ってすわった。「ごめんさい。」は言えなかったけど、お父さんはごきげんだし、「今度は別の料理も二人で作ろうか。」と約束した。残り半分になった今月の「お父さんウィーク」は、いつもよりちよつと楽しく過ごせそうた。

「じゃあ。いただきます。」

口を大きく開けてカレーをほお張った。

ぼくたちの特製カレーは、ぴりつとからくて、でも、ほんのりあまかった。

25



「お父さんウィーク」初日を読んで、あとの問題に答えましょう。

(1) 2枚目20行目「カレー皿に顔をつっこむようにして」とありますが、このあとの「ぼく」の態度から考えて、このようにして食べるのはなぜだといえますか。

ア お父さんと話す気になれなかったから。

イ お父さんの作ったカレーがとてもおいしかったから。

ウ おこっていたためあながとてもすいていたから。

(2) 3枚目4行目「お父さんは分かってない」とありますが、何を分かっていないのですか。

(3) 3枚目5行目「で、どうだ」と話した時のお父さんの気持ちを考えましょう。

ア 学校での「ぼく」に様子を心配する気持ち。

イ 都合の悪い話題から話をそらしたいという気持ち。

ウ 何とか「ぼく」の口を開かせたいという気持ち。

(4) 「ぼく」の心の中の、お父さんに対していらだつ気持ちをたとえている一文をさがし、書きぬきましょう。



漢字の学習

次の□に当てはなる漢字を

から選んで書きましょう。

① 健康保

② 入学試

③ □ 査をする。

検 験 険

言葉の学習

次の言葉の意味として正しいのはどれでしょう。

つぶやく

ア 声をおしこらす。

イ 大声で助けをよぶ。

ウ 小声でひとり言を言う。

冷やかす

ア 相手を困らせてからかう。

イ 元気がない人をはげます。

ウ 食べ物や飲み物をよく冷やす。

うなづく

ア 返事がしづらくて首を回す。

イ 相手に同意して首をたてに動かす。

ウ 相手に反対して首を横にふる。



「お父さんウィーク」初日を読んで、あとの問題に答えましょう。

《答え付き》

(1) 2枚目20行目「カレー皿に顔をつっこむようにして」とありますが、このあとの「ぼく」の態度から考えて、このようにして食べるのはなぜだといえますか。

ア お父さんと話す気になれなかったから。

イ お父さんの作ったカレーがとてもおいしかったから。

ウ おこっていたためあながとてもすいていたから。

(2) 3枚目4行目「お父さんは分かってない」とありますが、何を分かっていないのですか。

分かっていないことを言われるのがいちばんいやだということ。

(3) 3枚目5行目「で、どうだ」と話した時のお父さんの気持ちを考えましょう。

ア 学校での「ぼく」に様子を心配する気持ち。

イ 都合の悪い話題から話をそらしたいという気持ち。

ウ 何とか「ぼく」の口を開かせたいという気持ち。

(4) 「ぼく」の心の中の、お父さんに対していらだつ気持ちをたどっている一文をさがし、書きぬきましよう。

言葉がもやもやとしたけむりみたいになって、むねの中にたまる。



漢字の学習

《答え付き》

次の□に当てはなる漢字を

から選んで書きましょう。

① 健康保 險

② 入学試 験

③ 検 査をする。

検 験 険

言葉の学習

次の言葉の意味として正しいのはどれでしょう。

つぶやく

ア 声をおしこらす。

イ 大声で助けをよぶ。

ウ 小声でひとり言を言う。

冷やかす

ア 相手を困らせてからかう。

イ 元気がない人をはげます。

ウ 食べ物や飲み物をよく冷やす。

うなづく

ア 返事がしづらくて首を回す。

イ 相手に同意して首をたてに動かす。

ウ 相手に反対して首を横にふる。



書きましよう①

次の(1)～(3)の場面の「ぼく」の気持ちに対して、

- ・ 共感するところ
- ・ 反発をかんじるところ
- ・ 疑問に思うところ

があるでしょう。それらについて、(1)～(3)の場面から一つ選んで書きましよう。

- (1) 「ぼく」が意地を張るきつかけになった出来事があったとき。
- (2) 「お父さんウィーク」初日。
- (3) お父さんと二人でカレーを作ったとき。

《③》 お父さんと二人でカレーを作ったとき》

友だちの作文

お父さんとカレーを作って、いっしょに食べることが、お父さんと仲直りするきっかけになりました。何かきかけがないと、仲直りすることはできなかつたと思います。仲直りしたい気持ちがあつても、「ごめんなさい。」が言えない、「ぼく」の気持ちはよく分かります。練習ではできても、お父さんの顔をみえると、つい反発してしまうことはよくあります。ぼくも、お母さんにおこられると、つい口答えをしてしまいます。

.....

でも、最後に一言「ごめんなさい。」を言った方がよかつたように思います。「ごめんなさい。」を言った方が、これからのお父さんウィークで、お父さんと二人になつても楽しく過ごせるとおもいます。それに、今度お父さんとけんかした時に、簡単に「ごめんなさい」が言えると思います。

.....





「ぼく（わたし）は悪くない」という書き出しで、自分が経験したことを書きましよう。

友だちの作文

さかき ゆりこ
榊 百合子

わたしは悪くない。

弟がブロックべいから落ちたのを、わたしのせいのように言う父はおかしい。

わたしはよく弟といっしょに外で遊びます。弟はあまり外で遊ぶのは好きではないのかもしれませんが、わたしが外にさそつて遊びます。

昨日も、わたしが弟をさそつて外で遊んでいました。弟はめずらしくとても元気に遊んでいて、ブロックべいの上に登りました。わたしは、よくブロックべいに登ったり、木に登ったりするので慣れていきます。でも、弟がブロックべいに登るのを見るのは初めてだったので、心配してみました。すると、わたしが心配したとおり、足をすべらせたのか、ブロックべいから落ちてしまいました。

弟は泣いて家の中に行きました。わたしもおどろいて弟の後を追いかけて家に行きました。すると、何を思ったのか父がわたしが悪いようなことを言い出しました。父にしてみると、わたしが小さい弟をブロックべいに登らせたと思ったのかもしれない。あるいは、弟のめんどろを見ていなかったわたしに腹を立てたのかもしれない。

でも、弟がブロックべいに登ったのも、ブロックべいから落ちたのもわたしのせいではありません。なぜ、わたしがおこられるのか理由がわかりませんでした。「わたしは悪くない。」と言いたくなりました。何も言わずにだまっていますでしたが、心の中では、「わたしは悪くない」とさげんでいました。

榊さんの作文を読み取ろう

- (1) 「わたし」は、何について「わたしは悪くない」といっているのですか。
- (2) ① 「わたし」は、弟とよくどこで遊びますか。また、② 弟はそれについてどう思っていると「わたし」は考えていますか。
 - ①
 - ②
- (3) 外で遊んでいたとき、弟はどこから落ちてしまいましたか。
- (4) 弟がブロックべいから落ちたのを知って、お父さんはどうしましたか。
- (5) お父さんの様子を見て、「わたし」はどのように思いましたか。二つ書きましよう。

では、書いてみましょう。



榊さんの作文を読み取ろう

《答え付き》

- (1) 「わたし」は、何について「わたしは悪くない」といっているのですか。
弟がブロックべいから落ちたこと。
- (2) ①「わたし」は、弟とよくどこで遊びますか。また、②弟はそれについてどう思っていると「わたし」は考えていますか。
 ① **外で遊びます。**
 ② **弟は、外で遊ぶのがあまり好きではない。**

- (3) 外で遊んでいたとき、弟はどこから落ちてしまいましたか。

ブロックべい

- (4) 弟がブロックべいから落ちたのを知って、お父さんはどうしましたか。

「わたし」が悪いというようなことを言い出した。

- (5) お父さんの様子を見て、「わたし」はどのように思いましたか。二つ書きましょう。
- ・ **弟がブロックべいに登ったのも、ブロックべいから落ちたのもわたしのせいではない。**
 - ・ **おこられる理由がわからない。**

では、書いてみましょう。



宿題

次回の授業までにやる勉強です。

必ずやりましょう。

1. 漢字

「カレーライス」の本文の中にある漢字で、読めない漢字・書けない漢字がないか確認しましょう。

2. 音読

「カレーライス」を読みましょう。

3. 書きましょう

* 「書きましょう①」と「書きましょう②」がまだ書き終わっていない人は必ず書き上げましょう。

* 書き終わっている人は、読み直して間違っているところ、直した方がいいところを見つけてみましょう。



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

国語の学習

小学校

六年生

年間学習表



| 8月 | 7月 | 6月 | 5月 | 4月 | | |
|--|--|--|---|--|--|-------|
| | | <p>討論会をしよう 討論会の流れと進 め方を学習しよう。</p> | | | <p>1年間の学習を通し て先生の話を聞き、 学習を進めよう。</p> | 話す／聞く |
| | <p>本は友達 自分の好きな本を 紹介しよう。</p> | <p>ガイドブックを作る う 読み手に必要な情 報、自分が伝えた いことをふまえて、 文章を書こう。</p> | <p>生き物はつながりの 中に 文章全体を短くま とめよう。(要約 しよう。)</p> | <p>カレライス 主人公と似た経験 について書こう。</p> | <p>新聞記事 記事の要約をし、 記事に対する自分 の意見を書こう。</p> | 書く |
| <p>船りんご 詩の言葉に現れた 筆者の気持ちを読 み取ろう。</p> | <p>森へ 情景を想像しながら 読んで、森のイ メージを豊かに伝 える効果的な表現 を味わおう。</p> | <p>短歌・俳句の世界 短歌や俳句を讀ん で、リズムや言葉 の美しさを感じよ う。</p> | <p>生き物はつながりの 中に 筆者が文章を通し て一番言いたいこ とは何か考えよう。</p> | <p>カレライス 主人公の気持ちを 考え、自分と重ね 合わせて読んでみ よう。</p> | <p>新聞記事 記事の内容を読み 取るう。</p> | 読む |
| <p>同じ訓を持つ漢字 同じ訓を持つ漢字 それぞれの意味と 使い方を知ろう。</p> | | | <p>暮らしの中の言葉 ことわざや漢字四 字の言葉の、意味 や使い方を理解し よう。</p> | <p>漢字の形と音・意味 漢字の音を表す部 分、意味を表す部 分を知り、漢字の 組み立てを理解し よう。</p> | 言葉 | |

| 1月 (冬休み=授業は3回) | 12月 (冬休み=授業は3回) | 11月 | 10月 | 9月 | |
|--|--|--|--|---|-------|
| 今、わたしは、ぼくは 自分の思いが伝わる ような表現を身に付 けよう。 | 自分の考えを発信し よう 自分の考えをイン ターネットを使って、 友だちに発信しよう。 | | | みんなで生きる町 調べたことや考えた ことを分かりやすく 伝えよう。 | 話す／聞く |
| 感動を言葉に 見たり感じたりした ことをもとに、心の つぶやきを言葉にし よう。 | 自分の考えを発信し よう 「平和」に関する資 料を通じて、自分の 考えを書こう。 | イートハーヴの夢 宮沢賢治の考えにつ いて分かったこと、 思ったことを書こう。 | やまなし この作品を読んで 思ったことを、自分 なりにまとめてみよ う。 | みんなで生きる町 調べたことをもとに、 提案書を作ろう。 | 書く |
| | 平和のとりでを築く 文の書き方の特徴に 気をつけて、筆者の 考えを読み取ろう。 | イートハーヴの夢 宮沢賢治の考え方や 生き方を読み取ろう。 | やまなし 独特な言葉や表現を 味わおう。情景を想 像しながら読んで、 作品の特徴を考えよ う。 | みんなで生きる町 だれもが暮らしやす くするにはどうした らいいか考えよう。 | 読む |
| 漢字クイズ 小学校で習った漢字 を、正しく理解して いるか確かめよう。 | インターネットと学 習 インターネットを学 習に役立てるために、 注意することを確か めよう。 | 覚えておきたい言葉 教科や社会生活の中 で使われる言葉の意 味を理解しよう。 | 熟語の成り立ち 漢字二字・三字・四 字以上の熟語につい て理解を深めよう。 | 日本で使う文字 平仮名と片仮名の由 来を知ろう。ローマ 字とのかかわりを知 ろう。 | 言葉 |

| | 3月 | 2月 | |
|--|---|--|-------|
| | | | 話す／聞く |
| | <p>今、君たちに伝えたいこと 筆者が伝えたいことをまとめ、俺に対する自分の考えを書こう。</p> <p>生きる 「生きる」の形をまねて、詩を創ってみよう。</p> | <p>わたしたちの言葉 いろいろなあいさつについてまとめてみよう。</p> | 書く |
| | <p>今、君たちに伝えたいこと 筆者が経験をとおして子どもたちにつたえたいメッセージを読み取ろう。</p> <p>生きる それぞれの連に注意しながら、作者の考える「生きる」を読み取ろう。</p> | <p>海の命 周りの人々とのかわりの中で成長していく主人公の姿を読み取ろう。登場人物の言動から生き方や考え方を読み取ろう。</p> <p>言葉の橋 詩を味わい、心を伝える言葉の働きについて筆者の考えを読みとろう。</p> | 読む |
| <p>六年生の漢字 六年生で習った漢字の復習をしよう。</p> | | | 言葉 |



JPN Class

Online school – 日本語で学ぼう

国語の学習

小学校六年生

四月 第③週

「いいね」

「チャンネル登録」

してください！

また来週。

